

# 美しきふるさと黒部川

## 黒部川のあらまし…

黒部川は北アルプス鷲羽岳(2,924m)に源を發し、秘境黒部峡谷を流れくんだり日本海に注ぐ、流路延長約85km、流域面積682km<sup>2</sup>の我が国屈指の急流河川です。

上流域は、日本最大級の降水量と急峻な地形を利用した電源開発が古くから行われており、吉村昭の小説「高熱隧道」や石原裕次郎主演映画の「黒部の太陽」により、黒部ダムなど発電ダム建設の苦勞が紹介されているところです。

また、宇奈月温泉は富山県における最大の温泉地であり、黒部峡谷の門戸として、広く中部山岳国立公園の立山黒部アルペンルート地帯の一環として利用されています。

下流域では、急峻な山岳地帯から黒部川により流れてくる沢山の土砂により、日本を代表する扇状地を形づくっています。扇状地には美しい田園風景が広がり、黒部川の豊かな水に恵まれ、「名水100選」に指定された湧水群など、地域住民の重要な生活用水として利用され地域の風土、文化等の育成に大きく貢献しています。

しかし、恵みの清流もひとたび豪雨に見舞われると「あばれ川」と化し、古くから四十八ヶ瀬をもつ「いろは川」とも呼ばれ恐れられ、扇状地に生活する人々を苦しめてきました。

先人達のこれまでの努力により河川事業が施され、黒部川が現在の位置に落ち着いたのは比較的新しく、200年ほど前のことです。